

二〇一四年六月三〇日 開催

《『留学生と語る』 オープンディスカッション》

異文化との出会いについて語ろう！

松本陽子

(執筆||ミラー成三)

■ ディスカッション協力……本学留学生別科「日本語
インターアクション5」クラス生一〇名、古瀬彩加、
山下彩(本学英米語学科四年生)、小野寺優太(同三
年生)、松本紫央里(本学国際コミュニケーション学
科二年生)

■ コーディネーター……松本陽子(本学留学生別科准
講師)

第二回ディスカッションでは留学や海外旅行、また外国語
の学習など異文化との出会いと、その時にどのようなことを
感じたのかについて語りあった。

まず、初めて外国人と接した時の経験を報告しあった。そ
の中では、「言葉が全く分からなかったので、何を言っている
のか分からなくて怖かった」「アフリカの人だったが、背が高
くて肌が黒くて、自分とあまりにも違うから不思議だった」

「当時は日本語しか知らなかったもので、違う言語を聞いた時は
理解できないけど衝撃だった」「日本語はペラペラの人だった
が、見た目が違いすぎてびっくりした」など、自分と異なる
見た目の人や、言語に触れた時の衝撃が挙げられていた。一
方で、「高校の授業でオーストラリアから来たALTの先生か
ら色々なことを聞いた。教育制度の違いや文化の違いなどが
たくさんあって、面白いと思った」という意見が挙げられる
など、違いがあるからこそ興味を持ったという話もされてい
た。

次に、他の人たちに誇れる、自分の国の文化を報告しあっ
た。日本人学部生からは「タクシーだと思ふ。自動でドアを
開けてくれるし、荷物もトランクに入れてくれる。このよう
なことまでするのは日本だけだと思ふ」という意見や「やつ
ぱりトイレだと思ふ。すごくきれいだし、最近はずも消して
くれるものもある。ここまでトイレにこだわっているのはず

すごいことだと思うし、世界に誇れるのではないか」というユニークな意見も挙げられた。留学生からは「インドネシアはレストランのサーブミス。ファーストフードのお店でも店員さんが片付けをしてくれる」「優しさで笑顔だと思う。知らない人にもみんなまずは笑顔をしている」「タイでも笑顔だと思えばほほえみの国と言われるくらいだし親しくない人にもみんな笑顔なのはいいことだと思う」というサーブミスや人柄の良さを挙げる意見のほか、「台湾はやっぱ文化の多様性。多くの国に統治されてきたので、スペインや日本の文化も見られる」という多様な文化を挙げる意見も見られた。

続いて、それぞれの文化の違いで困惑したことについて話し合われた。その中には「日本語には『あなた』に相当する語がとても多い。中国語や英語ではそんなにないのに、あなた、君、お前などたくさんあってよく分からなかった」という言語に対する意見が挙げられた一方で、習慣に対する意見も多く挙げられた。例えば、「日本では『はい』か『いいえ』を曖昧にするのが普通だと思うが、アメリカ人の友人に遊びに誘われた時に曖昧に返事をしたら、行くのか行かないのかはつきりしないので困惑していた」「台湾では返事をする時に『は？』と返事をする。アルバイトをしていた時に仕事を教えてもらった後に大丈夫かと聞かれ『は？』と返事をしたら相手も困惑したので、自分も困惑したのを覚えている」「日本語

だと人を呼ぶ時は普通名字だが、英語では名前で呼ぶ。初めてあった人にいきなり名前で呼ばれた時はびっくりした」などの意見が話された。

異文化に触れたとき、初めは様々なことに困惑したという経験が話された一方で、長くその文化に触れていると次第にその文化に馴染むこともあることも挙げられた。次は外国の文化の違いに影響を受けて自分が変わったことが話し合われた。これは留学生からの意見が多く、「日本では細かいお金を嫌って、支払う時も細かいお金を使う。自分もコンビニで働いていたらそうになってきた。今では小さいお金は重いしできるだけ持っていたくないと思うようになった」「日本ではレストランとかで最初におしぼりをもらう。最初はどうすればいいか分からなくて口を拭いたりしていた。まわりの人を見たりして手を拭くものだと分かり、今ではおしぼりがないとちよつと嫌だと思うかもしれない」「日本では家庭でごみの分別をして捨てているが、中国では道にたくさんゴミ箱があつてそこに全部捨てている。めんどろくさいと思うこともあるが、環境にもいいと思うので、今は自分の習慣を変えてきちんと捨てている」など、初めは困惑したが次第に自分の習慣を変えていったという様々な経験が挙げられていた。

次に、留学生から「外国人の友達はいるか」という質問が挙げられ、これに対してはすべての方がいると返答した。そ

こから、なぜ様々な異なる言語や文化を持つ人と友達になれるのか、ということが話し合われた。これに関しては「お互いが違う文化を持っていると分かりあっているから」「最近はい異文化の友達だけでなく、国際結婚も盛んになってきていると思う。これはやはりお互いの文化の違いを理解しているからだと思う」という異文化に対する理解の重要性を指摘する意見が多く挙げられ、「本当に大事なのは国籍ではなく人と人とのつながりだということだと思う。それがみんな分かっているから友達にもなれる」という意見には多くの人が同意していた。

続いて仕事のために日本語を勉強しているという留学生からなぜ外国語を勉強するのか、外国語を勉強する意義は何か、という質問が挙げられ、それについて意見が交わされた。これに対しては、「最初は深い意味はなく、日本のアニメやドラマ、漫画が好きだったから勉強を始めた。勉強していくうちにもっと違う面を知ることができてよかったと思う」「その国の文化を深く知るために言語を学んでいる。その国に行く機会があったらその国の言葉を話せたらいいと思う」というような、言語を学ぶことよって文化をより知ることができるとい意見が挙げられた。その一方で、「カナダの文化について勉強し、行ってみたいと思ったが、英語が話せなかった。勉強をして実際に行ってみるとさらに色々なことが学べた」

というように文化を学んで興味を持ち、それから言語を学んだという意見も見られた。しかしどちらも「文化を学ぶ上で言語はとても大切」ということは共通して挙げられていた。

そして次はハグやキスなど、異文化のあいさつについてどう思うかについて意見が交わされた。「仲の良い人ならいいかもしれないが、初対面の人もハグやキスをするのは抵抗がある。また、目上の人や異性に対してもするのはやはり抵抗がある」とする意見や「キスは嫌だが仲の良い人とハグをするならばいいかもしれない」「キスはやはり抵抗があるがハグならまだ受け入れられると思う」というハグならば受け入れられることができるという意見なども挙げられ、異文化の習慣も、受け入れる程度は人や内容によって異なっているようである。



会場風景

るならばいいかもしれない」「キスはやはり抵抗があるがハグならまだ受け入れられると思う」というハグならば受け入れられることができるという意見なども挙げられ、異文化の習慣も、受け入れる程度は人や内容によって異なっているようである。